

自然保育推進事業 活動報告書

1 広島女学院ゲーンズ幼稚園

2 今年度の活動概要

(1) 環境構成に関すること

① 自然クラフト講習会 夏期（6月）と秋期（10、11月）の2回に分けて実施。

プラスチックの砂場遊具を使用することは、マイクロプラスチックを廃棄し続けている ことになる。竹や広葉樹、針葉樹など身近な自然物でスコップやお皿など、遊具をつくることのできる可能性を探り、できるところから実践するため。

園の周辺に生えている孟宗竹を活用して、脱プラスチックの外遊び遊具をつくるワークショップを開催。マイクロプラスチックの問題に向き合い、園としてできるSDGsの取り組みの一つとして、園庭開放ファミリーデーのプログラムの中で実施し、在園児だけでなく、地域の親子も招き、ちょっとしたアイデアで簡単にできる竹細工の遊具作りに取り組んだ。



② リスクマネジメント講習 夏期（6月）、秋期（10月）、冬春期（2，3月）に分けて実施。

森の中で自分の体勢を保持し、移動するための目と脳と手と足とその他の部位の連動による総合的、身体的機能を、主体的な活動体験の積み重ねの中で獲得していく遊びと生活の環境を整備する必要があるととらえ、その環境での活動が安心して展開することができるよう、さらには子ども自身が体験を重ねるうちに、自分自身の身を守り、仲間の安全をも守ることができるような育ちの場を保障することをねらいとして、自然体験活動での様々な場面を想定したリスクコントロールを学ぶ。

子どもが主体的に環境とかかわることができるよう、保育者がまずはその対象・環境要因となる自然物等について、感性を豊かにしてふれ、必要な知識をもって季節ごと、場面ごとに変わる子どもの活動状況に応じたリスク管理が必要であると

考える。そのため、保育場面の中にアドバイザーに入っただき、現場で直接助言をいただくことを重ねた。